

4	春日井	坂下中学校	コバヤシ タイシ 氏名 小林 泰志
---	-----	-------	----------------------

分科会番号	2	分科会名	外国語教育
-------	---	------	-------

## 自ら課題を見つけ、その解決に向けて主体的に 働きかけ、深めることができる生徒の育成

～単元内自由進度学習を用いた英語科学習指導を通して～

### 1 主題設定の理由

第4期教育振興基本計画（2023）では、16の目標と基本施策、指標の一つである「確かな学力の育成、幅広い知識と教養・専門的能力・職業実践力の育成」を達成するためには「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」、「学習者本位の教育の推進」が必要であるとしている。難波（2023）は自由進度学習を授業の進度を学習者が自ら決定し、最適だと考える計画を立て、自らの判断で行動し、その結果を、責任をもって受け止める学習方法だと述べている。そこで、自由進度学習を授業に取り入れることで、学習指導要領や第4期教育振興基本計画の目標を達成していくことができるのではないかと考えた。

本研究の対象となる本校2年生の生徒は、男女問わず仲が良く、様々なペアワークやグループワークなどにも協力して取り組むことができる。また、NRT（集団基準準拠検査）においては、全国平均と比べて、聞く、話す、読むの結果が上回っているという結果が得られた。（資料1）しかし、苦手な技能におけるの事前アンケートでは、約半数の生徒が、話す、書くというアウトプットの技能が苦手と答えた。

群	内 容	正答率	正 答	全国比	全国正答率との差
1	聞くこと	61.0	59.2	103	
2	話すこと	58.4	57.6	101	
3	読むこと	61.8	57.9	107	
4	書くこと	45.5	47.3	96	

（資料1）NRTにおける全国比

生徒の姿を見ると、日常生活から自分で課題を見つけることや、それらの解決に向けて主体的に働きかける姿はあまり見られず、教員や仲間の中のリーダーに頼る場面や物事を自分事として捉えることができていない現状も見られる。

### 2 研究の目標、仮説

生徒の実態をふまえ、目指す生徒像を次のように設定し、本研究を進める。

自ら課題を見つけ、その解決に向けて主体的に働きかけ、深めることができる生徒

目指す生徒像に到達するために、以下の仮説を設定した。

生徒の実態に合わせて精選した活動内容や、学習内容の精選をした一斉授業をしたり、単元内自由進度学習を取り入れた授業展開をしたりすることができれば、生徒は自ら課題を見つけ、その解決に向けて主体的に働きかけ、深めることができるだろう。

仮説を検証していくための手立てとして以下のことを実践していく。

手立て1 一斉授業による習得・活用、生徒の実態を把握した活動内容や学習内容の精選  
 手立て2 単元内自由進度学習による習得・活用

なお、本研究において、「自ら課題を見つける」とは、生徒自身が授業内において、自らの選択でその時間に学習する内容を決定できることと定義する。また、「その解決に向けて主体的に働きかける」とは、自らの課題に対して解決方法が示されるのを待つのではなく、自らの課題の解決に必要な情報や方法を自発的に得ようとする事と定義する。

### 3 研究の方法

#### (1) 研究の対象

本研究は本校2年生(115名)全員と、そのうちの3名の抽出生徒を対象とした。単元内自由進度学習に取り組むのは初めてである。また3名の抽出生徒の様子は以下の通り(資料2)である。

生徒A (学力上位)	生徒B (学力中位)	生徒C (学力下位)
・英語学習に対する意欲は高く、学外の検定試験にも取り組んでいる ・指示に対して確実に取り組むことができる ・わからないことがあれば教師に自らたずねることができる ・将来、英語を使った仕事がしたいと考えている	・英語学習に対する意欲はある程度ある ・指示に対して一生懸命取り組もうとする ・わからないことを自ら聞くことがあまりできない ・将来、外国人と英語でコミュニケーションをとれるようになりたいと考えている	・英語学習に対する意欲はあまり高くない ・指示に対して一生懸命取り組もうとする ・わからないことを自ら聞くことがあまりできない ・将来、英語を使うことについての見通しがあまりもてていない

(資料2) 抽出生徒の様子

#### (2) 仮説の検証計画

手立てを基にUnit2を例に単元指導計画を示す。(資料3)

時間数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
活動	習得・活用					(習得・)活用				活用	
学習方法	一斉	一斉・自由進度				(一斉・)自由進度				一斉	
学習内容	単元の見直しをもつ	新出文法の習得・活用				単元チェックリストの完成 自ら課題を見つけ、取り組む				単元テスト	パフォーマンステスト

(資料3) 単元指導計画

授業の1時間の例(資料4)や単元内自由進度学習の学習内容の例(資料5)を示す。

時間(合計)	活動内容	一斉・自由進度
4(4)	音読活動	一斉
8(12)	新出単語の読み・書き練習	一斉
5(17)	独学の時間	自由進度
20(37)	個人選択の時間	自由進度
8(45)	発話練習・振り返り	一斉

(資料4) 1時間の授業計画

#### 単元チェックリスト (黄色は全員が出来るようにしましょう)

- Point of Viewの質問(単元を貫く課題)に答えた。(単元の始め)
- U3の単語を読めた
  - U3の単語を書けた(単語シートのいが付いているもの)
  - U3の単語を全て書くことができた
  - U3の教科書本文を音読することができた
- 教科書を自分で読み、理解することができた
  - 教科書本文の日本語をみて英語で書くことができた。すらすらを使って
- U3の文法の理解(不定詞)ができた
- フォークシートの問題や教科書のPractice, Read and Thinkの問題に取り組んだ
  - これからの社会を想像し、自分の将来像や夢について考えることができた。
- 自分が体験したことや学んだことなどについて表現するためのフレーズや情報を考えることができた
- Point of Viewの質問(単元を貫く課題)に答えた。(単元の終わり)

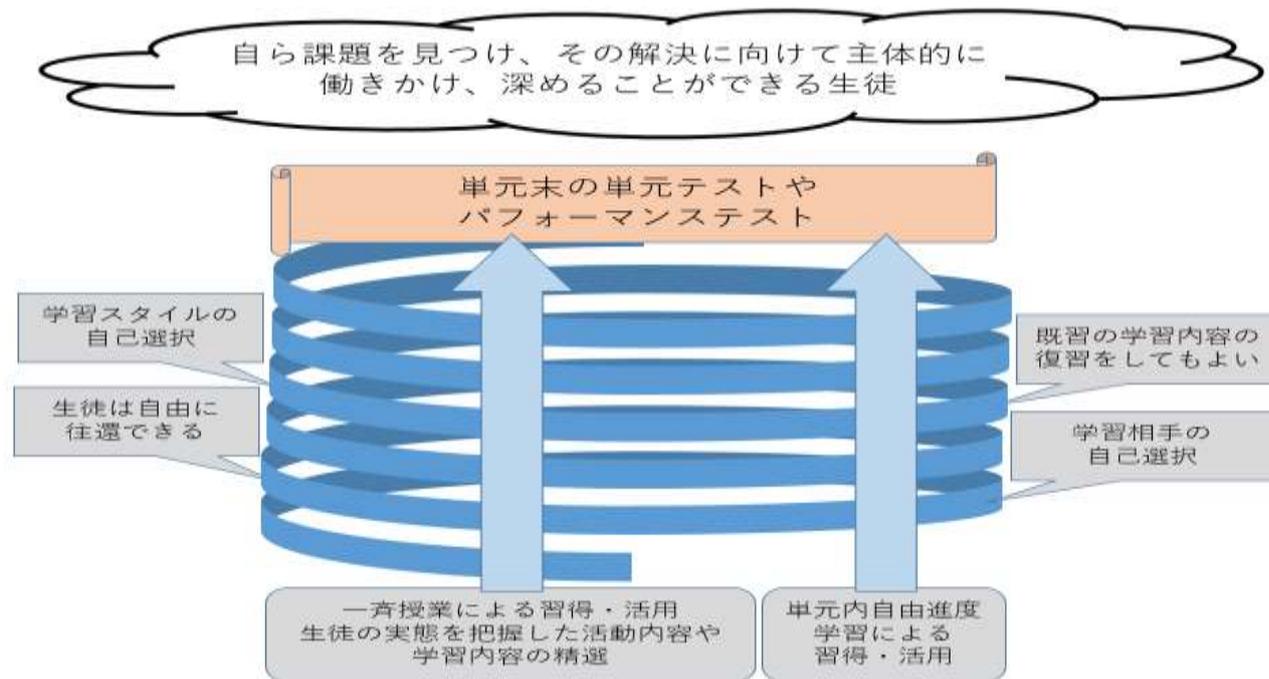
(資料5) 単元チェックリスト

### (3) 仮説の検証方法

仮説が有効であるかについて、学期末の生徒に実施するアンケートや授業の様子で評価する。それらを基にしながら生徒全体や抽出生徒の変容を捉え、目指す生徒像に迫ることができたのかを検証していく。

### (4) 研究構想図

研究を行うにあたり、研究構想図を以下のように設定した。(資料 6)



(資料 6) 研究構想図

## 4 研究の実践

### (1) 一斉授業による習得・活用、生徒の実態を把握した活動内容や学習内容の精選

高橋(2022)によると、新出事項の学習においては、繰り返し学習することで強化されるが、ただ単に一つの知識として覚えたという地点で止まってしまうと、内発的に生きて働く知識には程遠くなる。そのため重要になるのが、既習事項などとリンクさせながら学習していくことであり、そして、そのリンクした学習を繰り返すにあたってはパターン化された学習が大切であるとしている。この学習方法を生徒自身に委ねると、生徒の学習意欲によっては、既習事項とリンクすることなくただ繰り返すだけであったり、一問一答形式で答えのみを覚えたりしてしまうことが予想された。そのため本研究では、新出英単語や新出文法などの知識及び技能を習得する場合において、教師主導の一斉授業で取り組ませることとした。また、単元を通して授業の帯活動と

④自分のことについて「私は・・・すべきことがたくさんあります」という文をつくり、たずね合おう(授業の終わりにやりとりするので、自分の文を作り、読めるようにしておく)

例  
I have a lot of things to do for the weekend. (週末にすることがたくさんあります。)

自分の文章(黄色のところに語(句)を入れて文を完成させよう)  
I have a lot of things to \_\_\_\_\_

やりとりをするために・・・  
 教科書P40のPracticeに取り組み、意味を理解することができる。  
 例文や自分の作った文を読むことができる。(そのために3回は音読するといふね)  
 やりとりの形式の意味を理解ができる。  
 相手の発言に対するリアクションの方法の理解ができる。  
(上記のことができれば)単元チェックリストを参考に、できることとする。

やりとりの形式(高橋に会話のはじめのあいさつをしたり、リアクションをしたりしよう)  
A: Do you have any plans for the weekend?  
B: Yes, I do. I have a lot of things to do for the weekend. How about you?  
A: I have three books to read. I bought them last week. (続けられれば続ける)

(資料 7) 会話活動の例

して一斉授業による音読活動や発声練習などの習得を繰り返し行った。

また、活動の難易度を教師が設定し、既習の表現事項を取り入れた会話活動（資料7）や、自らの意見を書く活動（資料8）を積極的に取り入れた。授業の最後の会話活動においては繰り返し学習のため、さらなる知識の習得を目的として、追加で「～人以上と会話をする」と「会話をさらに1往復多く続けてみる」などのミッションも設定した。

P26や27の内容をまとめ、情報をもとに「日本のカレーライスの歴史」を自分なりにまとめてみましょう。追加の情報を書いても構いません。

There are many kinds of curry recipe in Japan.

Curry spices came to the U.K. from India.

A British company created curry powder.

This company lit for sale.

The cooking of curry became easy.

In the 19th century, this curry arrived in Japan.

（資料8）生徒Aの書く活動の取り組み

## （2）単元内自由進度学習による習得・活用

単元の前半に単元で新たに学ぶ文法を習得する時間をまとめ、自由進度学習を実施した。本研究では自由進度学習の中に独学の時間と個人選択の時間を設けた。

### （ア）独学の時間

独学の時間では、単元チェックリストや本時のスライドを用いて自ら課題を見つけることができるようにした。資料7のように本時の新出文法の部分を色分けすることでさらに生徒がその時間で習得すべき内容を明確にした。また、本時の学習目標を達成するためであれば、生徒自身が用意したものに取り組んでよいこととした。またこの独学の時間内で見つけた「わからない」「もっと詳しく知りたい」「友人の考え方を知りたい」などの疑問や深めたいことなどについては後述の個人選択の時間に個人でもっと深めたり、生徒同士でたずね合ったり、教師に聞いたりできるようにさせた。

本研究の初めは、多くの生徒は一樣に教師から提示したスライドに取り組んでいたが、単元を通して活動に慣れてくると、自ら活動の内容を選択してスライドに取り組んだり、練習問題に取り組んだり、解説動画を見たりする生徒の姿が増えた。

### （イ）個人選択の時間

それぞれの生徒が独学の時間に学んだことをいかして継続して学習したり、課題解決のために他と協働したりする個人選択の時間を設けた。本時の学習目標、単元の学習目標を達成するためであれば、学習内容、学習相手、教室内の学習場所を生徒に自由に決めさせた。独学の時間の中で自ら課題を見つけきれない生徒や、学習方法がわからない生徒に対しては他の生徒の取り組みを見たり、一緒に取り組んだりすることによって、自ら課題を見つける方法を知ることができるのではないかと考えた。また、この協働の時間の中で、教師からの文法の説明もした。生徒は教師からの説明を、自身の必要に応じて説明を聞くか聞かないか選択をさせた。また、教室内であれば学習する場所に制限を設けず、自由に移動させた。逆に独学の時間で自ら課題を見つけることができ、協働せずに個人で学習をしたいと思う生徒については継続して独学をすることも可とした。

活動中は、生徒同士でわからないことを共有し合って取り組んだり、理解できていない生徒がわからないことを他の生徒にたずねたり、理解した生徒が理解しきれていない生徒

に教えたりする様子が見られた。また、生徒は独学の時間で見つけた疑問を教師の説明を聞くことで理解し、その後、他の生徒と一緒に学習に取り組む様子も見られた。生徒同士や教師との協働をしている生徒もいれば、逆に個人で黙々と学習を続け、本時の目標の達成のみならず単元の学習目標の達成を目指して学習に取り組む様子も見られた。

単元の前半の習得の時間については、協働してグループやペアで同じ課題に取り組む生徒が大半であったが、後半の活用の時間については、同じグループであっても生徒は違うことに取り組みながら、疑問点を共有して課題解決に臨んでいる姿が見られた。また、この時間内においては多くの生徒が学習に取り組み続ける姿が見られた。しかし、友達と一緒に学習ができることから、集中しきれずに関係のない話を始めてしまう生徒も見られた。

## 5 研究の成果

4月から7月までの3単元が終了した7月中旬に Google フォームで生徒にアンケートを実施した。抽出生徒を含む99名のアンケートの結果や授業での様子を基に検証する。

### (1) 仮説の検証

#### ア 手立て1の成果

今回の実践では、7割以上の生徒が課題解決に主体的に取り組むことができることについて肯定的な回答をした。(資料9) このことから、手立て1は有効であったといえる。

#### イ 手立て2の成果

アンケート結果から、自由進度学習を用いることでその時間の学習目標を達成することが「とてもできた」「ある程度できた」と答えた生徒の割合が約7割であった。(資料10) また、自ら課題を見つけられたかどうかという問いに対しては約9割の生徒が見つけたという回答であった。(資料11) また、そのうちの2割以上の生徒は単元チェックリスト以外で自ら課題を見つけて学習に取り組むことができたと回答した。これらの事から、単元内自由進度学習を取り入れた授業展開は自ら課題を見つけるという力を身につけさせる上で有効であったといえる。

### (2) 全体の変容

生徒の実態より、日常生活から自ら課題を見つけることやそれらの解決に向けて主体的に働きかける経験を重ねることで、主題を達成することができるようになると考え、今回の研究に取り組んだ。その結果から、生徒は目指す生徒像に少しずつ近づいていることが

その課題について主体性をもって英語の学習に取り組むことはできましたか(ここでいう主体性とは、人にやらされるのではなく、自らやろうと思っ取り組んでいるという意味です)

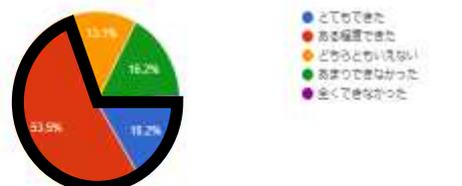
99名の回答



(資料9) 主体性についてのアンケート

授業の中でその単元の目標(新出文法の理解や本文の内容の理解など)を達成することができましたか

99名の回答



(資料10) 学習課題の達成についてのアンケート

授業内で自ら課題(その時間に自分ですること)を見つけられたり、考えられたりしましたか

99名の回答



(資料11) 自ら課題を見つけることができたかについてのアンケート

分かった。

### (3) 抽出生徒の変容

抽出生徒 A・B・C についてのアンケート結果から変容を調べた。

#### ア 抽出生徒 A について

生徒 A はアンケートにおいて学習目標の達成はでき、課題の見つけ方については単元チェックリストを用いて課題を見つけ、主体性をもって取り組むことができたという回答した。また、学習意欲の高い A は一斉授業で行う習得の時間でも自由進度学習で学習したいと回答した。また、自由進度学習では暇になることがなく、楽しいと回答した。生徒 A がこの先も課題を見つけ、より一層主体的に取り組むことができるように課題設定を調整してさらに成長できるように支援したい。

#### イ 抽出生徒 B について

生徒 B はアンケートにおいて学習目標の達成はある程度でき、課題の見つけ方についてはチェックリストを用いて課題を見つけ、ある程度主体性をもって取り組むことができたという回答した。また生徒 B については、一斉授業で学習に取り組む中で、単語や文法を覚えることが苦手と気づき、足りないと感じる課題を発見して苦手を解消できるようにするために自由進度学習内で他の生徒に質問をしながら課題に取り組む姿が見られた。生徒 B がより苦手の解消に取り組むことができるように支援をしていきたい。

#### ウ 抽出生徒 C について

生徒 C はアンケートにおいて学習目標の達成できたかという質問にどちらともいえないと回答した。しかし、単元チェックリストを用いて、本時の学習にはある程度取り組むことができたという回答した。また、自由進度学習については他の生徒と一緒に取り組んだり、質問をできたりすることがよいとした。このことから、生徒 C は自ら課題を見つけることはできてもあまり主体性をもって取り組むことができなかったということが考えられた。

## 6 研究の課題

生徒は本研究に対して肯定的な意見が多かった。しかし、知識の習得においては、一斉授業で効果的に効率よく知識を習得させることが大切であることが本研究で明らかになった。そのため、一斉授業の中で生徒が活動する量をさらに増やして学びの質を高めていきたい。また、アンケートの自由記述では、座席を自由にするすることで、教室の前方でグループ学習している生徒がいると、後ろに座っている生徒が教師の説明を聞きにくいという意見があがった。説明を聞きたい生徒については前方に座らせるなどして全員が学習に取り組めるよう工夫をしていきたい。本研究は 1 学期末までの結果であるため、2 学期以降も 1 学期のアンケート結果を反映して改善を行い、継続して研究を続けていきたい。

### ◆参考文献

文部科学省 (2023) 『第 4 期教育振興基本計画』

難波駿 (2023) 『超具体！自由進度学習 はじめの 1 歩』 東洋館出版社

高橋純 (2022) 『学び続ける力と問題解決 シンキング・レンズ、シンキング・サイクル、そして探究へ』 大修館書店